

津山郷土博物館だより「つく」

津博

TSUHAKU

2017.5 No.92

トピックス

江戸一目図屏風の実物公開
江戸一目図屏風の貸出
第111回 文化財めぐり

新刊のご案内

『津山松平藩町奉行日記』23の刊行

特別寄稿

「津山藩松平家の大名行列図」の
巨大巻物を授業で活用してみませんか？
兵庫教育大学 吉國 秀人

研究ノート

明和9年（1772）8月～12月の日記
東 万里子

お知らせ

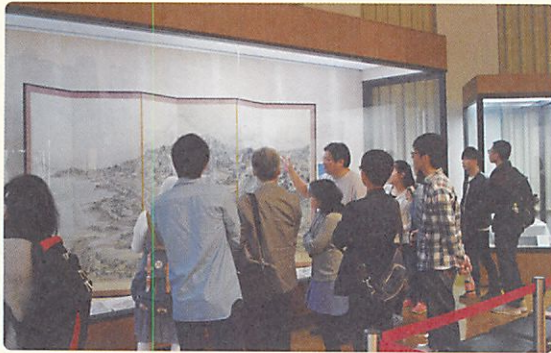
津山郷土博物館建物の耐震診断の結果
について
平成29年度の行事予定



津山郷土博物館

Tsuyama City Museum

江戸一目図屏風の実物公開



津山さくらまつりからゴールデンウィークの期間に合わせ、4月1日～5月7日の日程で、江戸一目図屏風の実物を展示しました。今年も会期中は大変多くの方にご覧いただくことができました。

なお、秋に貸出の予定が入っていますので、今年度も実物公開はこの春のみとなります。

江戸一目図屏風を貸し出しました

平成28年10月25日～11月20日まで行われた特別展「地図とアートの世界-伊能図とパノラマ風景画の200年-」に出品のため千葉県香取市の伊能忠敬記念館に貸し出しました。この展覧会でも江戸一目図屏風は好評で、多くの方に足を運んでいただいたとのことでした。

たくさんの方に
見ていただき
ました!



博物館キャラクター
「ファイアー」

第111回 文化財めぐり 《市内沼～山北》

3月18日、平成28年度最後の文化財めぐりを行いました。はじめに文化財センター職員の案内により、新たに県の重要文化財に指定された沼遺跡を見学しました。衆楽園で昼食をとり、最後に斎神社をまわって文化財センターに戻りました。坂が多いコースでしたが、最後まで歩いてまわることができました。ご参加くださった皆様、ありがとうございました。



『津山松平藩町奉行日記』23の刊行

1部800円
にて販売中

刊行のお知らせ

平成4年から翻刻を続けている『津山松平藩町奉行日記』の23号が、このほどようやく刊行の運びとなりました。今回は、文化2年（1805）の1年分の翻刻です。宝暦4年（1754）から慶応2年（1866）まで、94冊現存する内の35冊（約37%）が翻刻を終えました。23号は当館受付にて、1部800円で販売しています。

文化2年の日記の特記事項

文化2年当時の町奉行は江口勘太夫で、前年6月に12年間務めた前任の増見右門から引き継いで就任したばかりです。以下、文化2年の日記から、気になる記事をいくつか採り上げて紹介します。

①藩主の交代 この年、津山藩では藩主が交代しています。津山で正月を迎えた数え20歳の松平家第7代康又は、年頭から病気がちで、元旦の御目見えは「御不例」（病気）で取り止められ、在国時の恒例である月数回の城下の社寺への参詣もたびたび中止されています。参勤のため3月18日に津山を発ち、4月8日に江戸に着きますが、7月19日には江戸から「太守様御不例」を知らせる飛脚が到来、家中や惣町中が行った平癒の祈祷もむなしく、26日には「廿日卯上刻御逝去」の悲報がもたらされました。後継には、弟の慎三郎が末期養子に立てられ、閏8月6日に幕府から認められます。この慎三郎が、後の斉孝です。

四十九日に当たる閏8月10日までの中陰の間は、家中・町方ともにひたすら静かに慎み深く過ごすことが求められました。いわゆる「鳴物高声停止」の触により、家中は武芸の稽古、町方は鳴物と殺生を家職とする者の営業が差し止められています。

藩主の交代に関連して気になるのが、呼び方の変更です。天明7年（1787）2月以来、藩内では藩主のことを「太守様」と呼んでいましたが（詳しくは『津山城百聞録』所収「殿様と太守様」参照）、康又逝去の直後には、後継の慎三郎を「殿様」と称するよう触が出され、慎三郎への家督相続の認可の知らせが伝わった閏8月18日に、「大守様」と称するよう改めて触れられています。

既に翻刻された町奉行日記の中で、藩主交代時期の日記が現存するのは、宝暦12年（1762）の長孝から康又への交代時のみですので、この時の日記と比較照合しながら読むのも面白いでしょう。

②厳しい儉約措置 この時期の津山藩の財政事情は逼迫していて、2年前の享和3年（1803）10月から、2年間の期限付きで厳しい儉約令が出されていました。この時の儉約令は、内容・期限ともに安永5年（1776）の儉約令を踏襲したもので、作事方の業務停止や藩の馬を村方へ預けるほか、家中の給米も大幅に削減し、1,050～750石の者（家老・年寄格）の75%引きを筆頭に、格の低い者でも23%引きという非常・緊急の措置でした（『津山市史』第4巻251頁参照）。その期限が切れる直前の9月15日に、これから1年間は給米の削減はしないが、翌年10月からは、享和3年以前の削減率を適用すると通達されており、それと関連して大年寄をはじめ町役人への扶持米支給も復活しています。

③窃盗・博奕の頻発 この年に限ったことではなく、日記の翻刻が進んで年代が下るにつれて、窃盗や博奕の件数が増加傾向にあります。現存最古の宝暦4年の日記では、窃盗記事は5件、博奕記事は2件でしたが、文化2年は正月だけで窃盗8件・博奕1件（後半で博奕も増加）を数え、それら犯罪の取り調べや処罰に関する記事の占める割合も増えています。こうした世情を受けて前年9月には、村方の怠惰な者を収容して農作業を教え込む勤農所を開設したり、文化13年には怠惰な町人を説得する催促役を置いたり、藩もその対策に頭を悩ませています。

④町奉行の事務書類の保管場所確保 7月8日に、それまでは勘定奉行の預りであった「田町御門北角御矢倉」の半分を町奉行が拝借できるようになったので勘定奉行と相談するよう大目付から指示があり、8月13日には御用長持4棹を運び込んでいます。以前から櫓の拝借を申し込んでいたけれども、手近な場所に「明矢倉」が無いので、このような指示が下りたと記され、年々増加する書類の保管に苦慮していた様子がかげえ、藩内各部署における文書管理の実態を調べる上で興味深い記述です。（小島）

「津山藩松平家の大名行列図」の巨大巻物を

授業で活用してみませんか？

兵庫教育大学 吉國 秀人

1. はじめに

津山郷土博物館には、江戸時代の参勤交代に關して、多面的に学ぶことができる魅力的な教材が数多く所蔵されています。例えば、前号の津山郷土博物館だより「つはく」(2017年1月号、No.91)にも掲載されている「津山藩松平家の大名行列図」や「江戸一目図屏風」です。私は、社会科教育の専門家ではありません。しかし、社会科を含む種々の授業における子どもたちの思考過程に興味を抱いて心理学の研究を続けています。そのような研究者の視座から、授業における子ども達の思考を通して私が学んだことを、ご紹介したいと思います。

2. 巨大巻物を活用した授業での

子どもたちの様子

2013年以降に私は、津山郷土博物館所蔵の巨大巻物「津山藩松平家の大名行列図」(以下、巨大巻物と記す)を、度々お借りして、関西地区の先生方と一緒に授業実践を行っています。2014年9月にはA市の小学校6年生たちと、巨大巻物を用いた2時間の授業をさせていただきました。授業冒頭で巨大巻物に子どもたちが初めて出合った場面が、表1のやりとりです。大名行列に關する質問が、子どもたちからどんどん出されています。ここでは、「大名以外にも、人が入っているのが、・・・大名か?」という児童1の発言について

表1 授業における教師と児童のやりとり

話者	発言概要
教師	これって、本物の、津山郷土博物館という本物を持っている博物館の人達が、本物をそのままプリントしてくれたもの。だから本物は津山郷土博物館に飾ってあります。
児童	うわっ
教師	7枚パネルです。それを7枚つなげたところです。では広げます。この緑の線からここまでが1枚ですね。それが7枚つながって巻物になっています。
児童ら	「わあ。」「ながーい。」「ながっ。」
教師	今からどこが先頭で、どこが最後なのかを僕が指します。
児童	えっ、これが大名?
教師	これが、たったひとりの大名をみんなで守ってる。
児童	上げえーっ。
教師	ここにのっているたった一人の大名の、あとみんな家来、家臣。
児童	えっ、じゃあ、あの小っちゃいのは? (男子の声。授業者にはよく聞こえていない)
教師	このひとりの大名の大名行列です。
児童	ええっー (男子の非常に驚いた声)
教師	で、どこがその行列の先頭かという、ここです。今から走りますからね。ここからずーっと、こうつながっていて、よく見ると切れていなくてカーブしてるでしょ。ずーっとつながってて、ここカゴです。ここが大名。そして、ずーっときて、ここ切れていないでしょ、カーブしてるでしょ。ということはどこが最後ですか?
児童	ここ。
教師	はい、そこが、一番うしろということになります。
児童	上げえ。
教師	S字になってるね。
(注)	* 絵巻物をこれから詳細に見る前に、次々と、子どもたちの方から、質問が出された。
児童1	(男子の声) 大名以外にも、人が入っているのが、・・・大名か?・・・
教師	そうね。(疑問に思ったことは、もともと)わかる。大名が何人も乗ってたりするわけでは、ありません。
児童2	じゃあ、大名に近いくらいの人か?
教師	そうです。家来の中でもえらい人です。例えば、家老なんていうのは、この旅を指揮してたいろいろ準備したりする総責任者です。家老という。
児童	へえー。
教師	この人は、大名よりは下だけど、えらい人なので、今言ってくれたように、カゴのっています。(他にも手が挙がる)はい、どうぞ。
児童3	なんで後ろは、馬ばかりおるんですか?
教師	ああ、すごいねえ。今、行列のきまりをみつけてくれたところだけど、たしかに。先生もなんだから、わからんけれど、行列の後ろの方に馬がいるっていうのは、この行列のひとつのきまりだったみたい。うしろの方に騎馬隊がいます。騎馬隊って、馬にのった人達がいます。戦いの時にはこの馬が、バアッーと前に出てくる。
児童4	何のために服の色を変えてるんですか?
児童	ああ
教師	そうだよ。服の色が変わってると思う?例えば、どこどこが違う?
児童	黒の色の人がいるけど、違う色の人もある。
教師	黒の人がいるけど、違う色の人もあるね。何でか、先生もわからん。服、着てない人もいるよ。ちょっと色々調べてみようね。
児童ら	わははは(笑)

考えてみます。巨大巻物の大名行列には、複数のカゴが描かれています。そこでこの児童は、「複数の大名たちが、それらのカゴの中にひとりずつ乗っているのではないのかな」と、巨大巻物を前にして彼なりに思考をめぐらしたのではないのでしょうか。こんなにも長い大人数の行列が、「たったひと

り」の大名によって率いられている行列であったこと。それは、児童にとっては、決して自明ではないことを示唆してくれているといえましょう。さらに私などは、「大名行列」という語句だけが唯一思考の手がかりであるような場面にもし置かれたとしたら、たとえ大人であっても、大名「が」



写真1 巨大巻物を活用した授業の一コマ

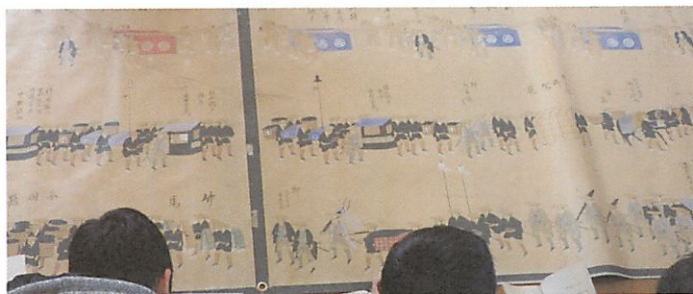


写真2 巨大巻物を観察する児童たち

群れて行列する様を連想する事態が、きつと起きるにちがいないと想像しています。

さらに、授業の中では巨大巻物を観察してもらい、描かれた大名行列の全体人数を予想してもらいました。直感では「2000人くらいいる」という予想が最も多かったです。彼らは、大名行列の人数をねばり強く数え、「695人」とかなりいい線（実際は、およそ800人くらい）をいつている数を発表してくれた児童も見られました。また、行列の人々がいろいろな職業を有していることや多様な道具を持っていることにも気づいてくれた様子が、彼らの感想文に表現されていました（例…先頭にお医者さんがいる、料理人見つけました、熊の毛のさやのやりがあった、おふろ見つけました、たか狩りをするためのたかがいた、など）。

このように、津山郷土博物館所蔵の教材は、児童らの本音をたくさん引き出しうる魅力を秘めています。授業を通して学習者の本音に迫ってみたいと願う教師・研究者にとつて、まさに「宝物」といえるでしょう。

3. 今後に向けて

2016年と2017年には、共同研究者である前田浩伸先生の協力を得て、B市の小学6年生たちとも、授業をさせていただく機会をいただきました（写真1、写真2）。授業前半で「大名つてここ（巨大巻物に描かれている津山藩の大名行列）に何人いました？」とたずねてみました。「大名ひとりで、えらいから」という児童とともに、「2人」「4人くらい」という予想も出されました。また「参勤交代」では、大名が江戸城にいる將軍

にあいさつし江戸を守る仕事をしたことを、児童と一緒に具体的に考える工夫はないものかと、いろいろと試行錯誤を続けています。「大名と家来たちは、江戸で何をやるのだろう」と問いかけてみると、「仕事」や「江戸にいた子どもたちと一緒に遊んだと思う。で、一年間すすみたくないな」そして「鷹狩りとかね、山まで行って」と楽しく予想してくれました。

津山郷土博物館所蔵「江戸一目図屏風」には、江戸城周辺にて槍を立てて行列する人々の姿が、あちこち

描かれています。津山郷土博物館所蔵の巨大巻物「津山藩松平家の大名行列図」とともに「江戸一目図屏風」などの教材も授業でうまく組み合わせ活用すれば、江戸時代の参勤交代についての多面的な理解が子どもたちと一緒に私自身もすすめていけるのではと期待しています。皆様も、ぜひさまざまな学びの場でご活用いただき、今後もいろいろなご教示を賜りますよう、お願いいたします。

学校の先生方へ

大名行列図の巨大巻物はほぼ実寸大で、幅90cm、長さ約13mあります。吉國先生の文章を参考にして、授業で活用してみたいかがでしょうか。お気軽に当館へご相談ください。

明和九年（二七七二）八月～十二月の日記

東万里子

はじめに

津山藩松平家文書は岡山県の重要文化財に指定されています。松平家文書のうち国元日記は、津山の重要な出来事が記録されている日記です。しかし、文化六年（一八〇九）の火災で、それまでの多くが焼失してしまいました。その後文化九年にかけて、津山藩はさまざまな資料をかき集め、再編したのですが、明和九年（安永元年）八月～十二月の期間だけ、目録上国元日記が見当たりません（津博78号）。『津山町奉行』（渡部武著 昭和五十六年）の注でも、「明和九年八月から十二月までの『国元日記』は欠本」となっています。

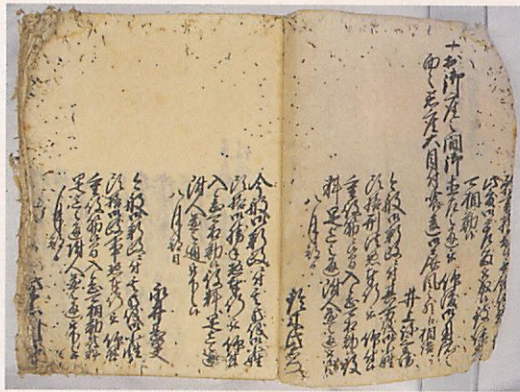
今回の研究ノートでは、ちょうど国元日記が欠けている期間に当てはまる二つの日記、78号の研究ノートの最後ですこしだけふれた明和九年八月～十二月の「御政事奉行日記」と「大目附所日記」を紹介し、同時期の他の資料と比較したいと思います。

「御政事奉行日記」と「大目附所日記」

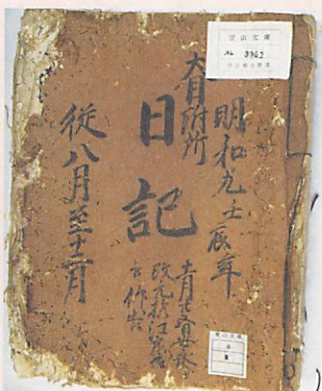
写真①②は、明和九年八月～十二月の「御政事奉行日記」と「大目附所日記」です。書かれている文字を見ると、同時期の町奉行日記



写真①-1 明和九年8月～12月
「御政事奉行日記」表紙



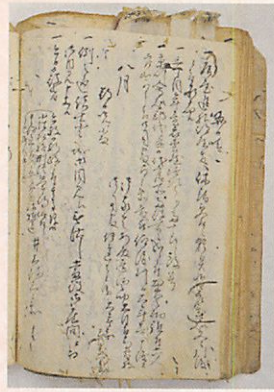
写真①-2 明和九年8月～12月
「御政事奉行日記」内容



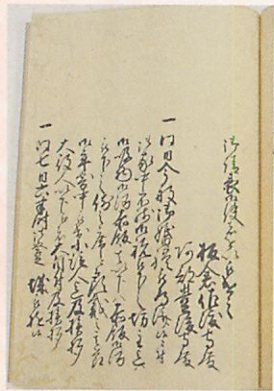
写真②-1 明和九年8月～12月
「大目附所日記」表紙



写真②-2 明和九年8月～12月
「大目附所日記」内容



写真③ 明和九年
「町奉行日記」



写真④ 明和8年7月～12月
「国元日記」

（写真③）と比べて整っていることがわかります。前年の明和八年の国元日記（写真④）と見比べても遜色ありません。このことから、この二冊の日記は、同時期の町奉行日記などと比較したとき、より整った記録として意識して書かれたと考えることができます。

明和九年八月

明和九年の国元日記について、はじめにでもふれたように、八月～十二月は抜けていますが、一月～七月の国元日記はのこされています。この日記については、文化六年の火災で焼失した後に再編された旨は書かれていません（明和九年前後の国元日記については表①）。

元禄・宝永期や天明五年、幕末を除いて、国元日記は二年を三冊にまとめているか、一月～六月、七月～十二月と二分冊になっているものがほとんどです。二分冊になっている国元日記の多くが半年の一月～六月でまとめているのに対して、明和九年の国元日記は一月～七月でまとめられています。なぜ、明和九年は中途半端ともいえる期間でまとめられているのでしょうか。

藩主康致（後に康哉）は、藩政改革を決意し、明和九年八月には、

津山で新政を始めます。この新政については、『津山町奉行』、『津山市史』第四巻近世Ⅱ、『町奉行日記七』の解説、『津山学ことはじめ』などでさまざまなことが明らかにされてきました。なかでも、この新政を機に、藩内の記録整備が進んだ点が指摘されています。

明和九年の国元日記が一月～七分で三冊となっているのは、八月から始まった新政により、体制が変わったことから、区切りがいいところ

表① 明和九年前後の国元日記

時期	国元日記	国元日記奥書の有無	備考
明和6年1月～6月	1冊	なし	
明和6年7月～12月	1冊	なし	
明和7年1月～6月	1冊	なし	
明和7年7月～12月	1冊	なし	
明和8年1月～6月	1冊	なし	
明和8年7月～12月	1冊	なし	
明和9年1月～7月	1冊	なし	
明和9年8月～12月	目録上なし		ちょうどこの時期の「御政事奉行日記」「大目附所日記」がある
安永2年	1冊	「文化六年御記録之内焼失二付安永二巳年以御政事奉行永井甚大夫役中扣書并大目付平井郷左衛門御記録書抜記之大目付黒田頼母」	
安永3年	1冊	「文化六年御記録之内焼失二付安永三年分以御政事奉行永井甚大夫大目付平井郷左衛門役中扣書記之 大目付黒田頼母」	

まとめられたのかもしれない。御政事奉行もこの新政により設置された役職で、大目付もこの新政で重要視されるようになりました。

内容の比較

これらの新政に関する研究は、藩主自筆の形式をとった記録とされる「壬辰更張録」や、「町奉行日記」「郡代日記」をはじめとして、新政の中心人物であった大村莊助・飯室莊左衛門の意見書などをもとにして進

められてきました。なかでも、「壬辰更張録」は、新政の内容について、国元での実施準備段階である明和九年の六月から記述がはじまり、十二月にかけて日記形式で書かれており、新政がどのように実施されたのかよくわかる資料です。

この「壬辰更張録」の八月～十二月の部分と、明和九年八月～十二月の「御政事奉行日記」「大目附所日記」は同じ時期について書かれています。その記述内容を比較したとき、はじめに気が付くのが、政事堂についての記述の有無です。

政事堂は、七月廿日に城内の二つの部屋を使って、新しく任命された長官等（大目付を含む）が列座できるように設置され、八月三日には細かな捷書が掛けられました。しかし九月十一日には、重臣からこれまでの通り行いたい旨意見され、同月十八日には当分見合わせる事となりました。このような政事堂の顛末について、「壬辰更張録」には記されているのですが、「御政事奉行日記」「大目附所日記」ではほとんどふれられていません。政事堂は実態としてまったく機能していなかったのか、短期間になくなってしまったものは「御政事奉行日記」と「大目附所日記」を書くときに省略した、などの可能性が考えられます。政事堂と同じく、この新政により始められ、明治まで続いたとされる疏状箱については「壬辰更張録」「御政事

奉行日記」「大目附所日記」すべてに記されています。

一方、「御政事奉行日記」と「大目附所日記」には、「壬辰更張録」には記されていない儀式の式次第や、家臣が切手を落としたこと、溺死人が出たことなど、日々の出来事が記されています。

次に、「御政事奉行日記」と「大目附所日記」を比較すると、多くの記述が重複していることに気が付きます。内容が一致しているだけではなく、文言もそのまま一致する例が多々あることから、これらの日記が、それぞれの役所で個々に記されていたのではなく、情報共有がはかられたのではなく、情報共有がはかられた形で記録されていたことがわかります。

おわりに

明和九年八月～十二月の期間について、もともと国元日記は作成されなかったのか、あるいは文化六年の火災で焼失したあと再編されなかったのか、など、可能性はいくつか考えられますが、答えは出せていません。しかしちょうどその期間を補うようにのこされている「御政事奉行日記」「大目附所日記」は、「壬辰更張録」には記されていない日々の出来事も記されており、これらの日記を参照することで、この時期の津山藩についてより知ることができるとは思います。

— お知らせ —

津山郷土博物館では建物の耐震診断を行った結果、1階部分でIs値（構造耐震指標）がもっとも低く0.29となり、所要の耐震性能を有していないと報告されました。耐震補強事業については現在計画中ですが、事業開始にともない、その期間中は休館とさせていただきます。

（参考）

耐震改修促進法によるIs値の指標は以下のとおり

0.3未満（震度6強で） 倒壊、崩壊する危険性が高い

0.3以上0.6未満（//） 倒壊、崩壊する危険性がある

0.6以上（//） 倒壊、崩壊する危険性が低い

平成29年度 津山郷土博物館 行事予定

特別展

今年度の特別展は休止いたします。

広報活動

- ◆博物館だより「津博」の刊行
No.92／5月 No.93／7月
No.94／10月 No.95／来年1月

出版

- ◆「津山松平藩町奉行日記24」翻刻出版
- ◆平成28年度年報の刊行

教育普及活動

- ◆古文書講座「鞍懸寅二郎の書簡を読む」
5月11日(木)・6月8日(木)・7月13日(木)
9月14日(木)

夏休み子供歴史教室

- ◆弥生土器をつくろう
7月27日(木)・8月16日(水) 全2回
- ◆勾玉をつくろう
8月8日(火)
- ◆トンボ玉をつくろう
8月9日(水)

文化財めぐり(友の会)

- ◆5月21日(日)・10月・3月
※10月・3月の日程は
決まり次第お知らせします



博物館だより「つはく」
No.92 平成29年5月1日



〔編集・発行〕津山郷土博物館

〒708-0022 岡山県津山市山下92
Tel (0868) 22-4567 Fax (0868) 23-9874
E-mail tsu-haku@tyt.ne.jp

〔印刷〕有限会社 弘文社

入館のご案内

〔開館時間〕午前9:00～午後5:00
〔休館日〕毎週月曜日・祝日の翌日
年末年始(12月29日～1月3日)・その他
〔入館料〕一般…200円(30人以上の団体の場合160円)
高校・大学生…150円(30人以上の団体の場合120円)

中学生以下・障害者手帳を提示された方・
市内在住の65才以上の方は、入館料が無料です。